御 学校だより

２０２５年７月２日
藤沢市立御所見中学校
校　長　山田　大

生徒が主体的に運営した体育祭
～現状維持は後退である、新たな挑戦を続ける御所見中～

６月２日（月）、金曜日から延期となっていた第７５回体育祭が行われました。昨年から「校長のあいさつ」を省略するなど生徒主体の体育祭を進めてきましたが、今年は「より生徒が主体的に運営する」体育祭を目指しました。※なぜか今年は校長講評として復活

具体的には①全体練習の指揮も生徒が担う、②先生は極力生徒に指示を出さない、③ブロック長が男女１名ずつに、④係の仕事も生徒が中心に、取り組んできました。また、例年と違うのは１年生が３クラスなので、１年生がいないブロックを作るのか、１年生を４ブロックに分けるのか、昨年度から検討を重ね、緑ブロックは１年生がいない２，３年生の編成となりました。

全体練習にしてもブロック練習にしても、先生がほとんど口を出さないので、進行の面で少しスムーズに行かない場面もありましたが、ブロック長・種目長・係のリーダーなど３年生を中心に「対話」を通して問題を解決し、生徒主体で立派に体育祭を成功に導きました。まさに、学校教育目標の「生きる力を育む」が実践され、生徒同士の意見や感情のぶつかり合いやトラブルを「自分も人とも大切に」という学校スローガンで乗り越えた体育祭となりました。

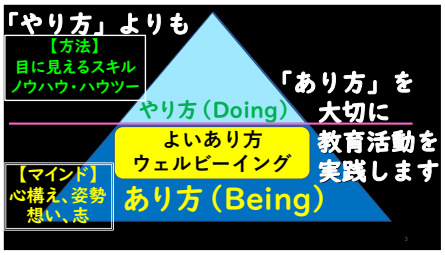
さらに、３年全員リレーのスタート時にまさかのサプライズが！スタートのピストルの合図で、スタートラインに並ぶ第一走者を含め、待機場所に並ぶすべての３年生がバタバタとその場に倒れ込みます。

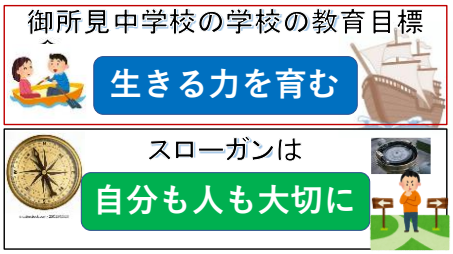
銃で撃たれた様子を全員で表現したパフォーマンスに場内は一瞬何が起こったのか理解できず、静まり返りますが少し間をいて笑いや歓声がわき起こりました。来賓の方も「とても楽しくて良かった」とおっしゃっていましたが、私は閉会式の校長講評で「体育祭の趣旨としてふさわしくない」と言いました。これまで練習期間や予行を通して真剣に取り組んできた体育祭の「目的」から考えると、あえて笑いを取る必要はなかったと思うからです。「目的」の大切さはこの後の記事に書きたいと思います。

ただし、これまでの皆さん、特に３年生の取り組みに対して、すべてを否定したつもりはありません。みんなを楽しませようという思いも十分理解できますし、新たな試みを思い切って実行することも評価できます。生徒の皆さん保護者の皆様はどう思いましたか？校長から「ふさわしくない」と言われたぐらいで主体的な挑戦をやめないでくださいね。よかれと思って行動しても、褒められなかったり、感謝されなかったりすることもあります。

やり方（Doing）よりも在り方（Being）を重視する

前回の学校だよりと今回の体育祭の記事で「目的を大切に」ということを書きました。別の言い方をすると「やり方（Doing）」よりも「在り方（Being）」を大切にするということでしょうか。





学校で行われる授業や行事には、すべて「目的」があります。修学旅行や体育祭などの大きな行事では、ついつい「どのようにやるか」に関心が集まり「どうあるべきか」という意識が薄れてしまっていることがあります。例えば、ルールや種目の内容を細かく議論することも大切ですが、本来の目的を忘れてはいけません。

上のイラストは、昨年・今年の全校集会で提示し、学校だよりに掲載したものです。御所見中で行われるすべての教育活動は「生きる力を育む」こと「自分も人も大切にする」こと「持続可能な社会の創り手」を育てることを目的にしています。生徒の皆さんは、日頃の生活の中で意識できていますか？

大成功・１００点満点でも終わった瞬間から反省・改善
～主体的だからこそ失敗・批判・評価を受け入れ乗り越える～

前回の学校だよりでは、修学旅行について批判的な内容を書きました。体育祭の校長講評で「ふさわしくない」と言われたことも含めて、せっかく頑張っているのに残念な気持ちになっている生徒がいるのではないかと思います。

私自身、修学旅行にしても体育祭にしても、生徒が主体的に取り組み、本当に素晴らしい行事だったと感じています。しかし、どんなに素晴らしい取り組みであっても、終わった瞬間から反省し、改善点を見つけて更に前に進むことが大切です。時には批判や厳しい評価を受けることもあります。それでも、めげずに自分で考え、判断し、行動するのです。そういうことも乗り越えてこそ、主体的な取り組みであり「努力の上の辛抱という棒を立てて、そこに花が咲く」ことにつながるのだと考えます。批判、失敗、結果、評価を恐れずに、今、ここに全力を注ぐ挑戦を続けましょう。

重点目標は支援教育・小中交流・チームビルディング

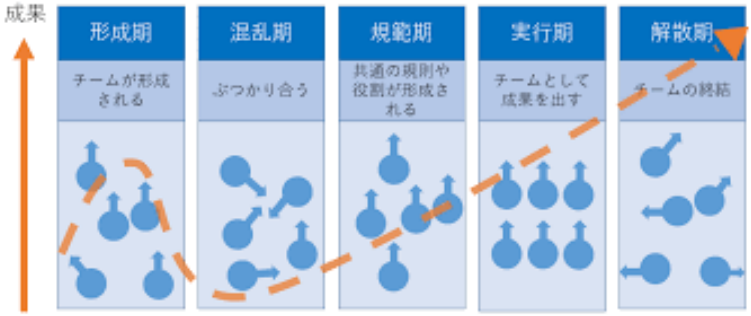
御所見中の教育目標・スローガン・育てたい生徒像は度々紹介していますが、今年度の重点目標というものがあります。それは①支援教育の推進、②小中交流の推進、③チームビルディングの推進、です。

①支援教育の推進は、特別支援学級（５組）を学校の中心としてすべての職員が関わり、５組から教育の本質を学び、すべての生徒が５組とともに学ぶことを目指します。また、教室で授業を受けることが難しい生徒を対象とした別室、「もちつもたれつ庵」を活用して、「その月に１日も登校しない生徒ゼロ」を目指します。

②小中交流では、三校合同のコミスクや県から委託を受けた研究事業「学びづくり」を通して、御所見中里地区全体で子どもたちの成長を支え、授業や行事をともに研究します。

③チームビルディングの推進は、「タックマンモデル」という考え方のモデルを活用して特に御所見中学校の職員をよりよいチーム（組織）にするための取り組みです。【タックマンモデル】→

ゆくゆくは、学級経営や部活動生徒会活動、行事などにも取り入れていきたいと考えています。



体育祭で見られた支援教育の推進
～みんなで見守った１年生の全員リレーのスタート～

今年度の重点目標「①支援教育の推進」について、月曜日から金曜日の午前中、授業の空いている教員１名が特別支援学級のサポートに参加しています。職員室では、サポートから戻った職員が５組の生徒の様子を話題にして実にほのぼのと５組への理解を深めています。

５組を学校の中心とする取り組みの現れとして、体育祭の「１年全員リレー」のスタートを待つ場面がありました。予行ではスムーズでしたが、５組の生徒がなかなかスタートラインに着けず、気をもみましたがみんなで見守り、なんとか全員そろってスタートできました。スタートを待つ時間が何とも温かい雰囲気に包まれていたことを嬉しく思いました。

藤沢市中学校総合体育大会（市総体）始まる！
～努力の上の辛抱という棒を立てて、花が咲いたか？～

６月２１日（土）から藤沢市中学校総合体育大会がスタートしました。この大会は全国大会につながるもので、敗退すれば３年生にとって最後の大会となります。まさに３年間の運動部活動の集大成と言える大会です。

現時点で、引退が決まってしまった、勝ち進んでいる、大会が始まっていないなど部活動によってそれぞれですが、全力を出し切って戦ってほしいと思います。その上で「努力の上の辛抱という棒を立てて、花が咲く」ことを期待しています。詳しくは次号の「学校だより」に書きます。

【サッカー部】

【女子バスケットボール部】

【男子バスケットボール部】

【軟式野球部】